（善隣・保護者の会）

泉の会だより

善隣幼稚園で定期的に開催している保護者の集まり（泉の会と呼ばれています）では、園長自らがマイクを持って、子育てや幼児教育について大切にしたい考えや想いを保護者の皆さんにお話する場を持っています。家庭との連携を大切にしている善隣幼稚園ならではの温かい時間です。今後、そのお話の内容を少しずつシェアしていこうと考えています。

【泉の会だより　vol.1】

園長の井上です。

今月の泉の会では、＜私の親バカ子育て＞と題し、私が息子の育児を通して、今振り返ってみて感じることや今だからこそ思うことをお話しします。

我が子の子育ての中で、たくさん失敗もしましたし、反省もしました。もちろん楽しかったこと、大切な思い出も数えきれないほどあります。息子が幼少期、思春期を経て、大人になった今、それぞれの育ちの中で多くの時間を彼と向き合ってきて、今回皆さんにお話するテーマにしたいのは「こどもと遊ぶということ」についてです。

皆さんはご自身のお子さんとよく遊んでいますか？動物園や遊園地に連れて行って、一緒にレゴを作って、戦いごっこやおままごとも一緒にやって…とてもよく遊んであげているように思いますよね。では、「ママちょっと見て」「ちょっと来て」の声に対してはどうでしょうか。子育てを経て私が感じていることは、親の「よく遊んであげている」と、こどもの「満足に遊んでもらった」とは必ずしも同じではないのかもしれないということです。私自身の、「息子と遊んであげた記憶」と、大人になった息子の「遊んでもらった記憶」とのギャップを知った時、今この時、これをママとしたいという時に、手を休めてくれて、そこにいてくれるママをこどもは求めている、今いてほしい！という時にそこにいてあげる、ということが、こどもにとっては大切なのかもしれないと感じたのです。

きっとこどもたちは１日に何度も「ちょっと見て」「ちょっと来て」とママやパパの存在を求めています。その声にできる限りたくさん耳を傾けて、できる範囲で手を休めて、彼らの遊びを「見て、認めて」あげてください。どこに連れて行った、何をやったということよりも、こどもが欲している小さな瞬間に、できるだけ心を寄せることが大きな満足感と安心感へとつながるのでしょう。そしてそれは、こどもたちが育つための大きな土台となるのです。

子育てはまだまだずっと続きます。これからも、このかけがえのない時間を楽しんでくださいね。